

## 災害資料 記録項目(メタデータ)設定ガイド ～次世代に伝える情報の構成～

災害状況や支援・復興に関する映像、文書、オーラルなど多様な資料のデジタル・アーカイブ化は、防災、行政、教育、学術研究などの各分野において利活用できるように、継続的な記録と保存・管理に対応できる情報の構成が望まれます。

デジタル・アーカイブは現在および数十年、数百年後の利活用を考慮し、各資料の内容・分類、位置・時間、環境、権利など資料に関する基本的なデータ(メタデータ)を検討することが必要です。そこで、各分野の資料収集用デジタル・アーカイブとして共通に記録し、次世代への伝承・利用に備えた基本的な項目(メタデータ)について次に示します。

### 1. 災害資料の基本的なメタデータ (細部のメタデータは必要に応じて追加する)

- (1) 資料番号
- (2) 表題 [写真、映像、文書、オーラルなどの資料名]
- (3) 原資料情報 [記録した元の資料の情報:例 新聞、テレビなどの報道、書籍、オーラル]
- (4) 説明 [資料に対する説明]
- (5) 分類
- (6) 索引語(キーワード)
- (7) 対象 [資料の対象者:例 オーラルの際、話者の氏名、所属、住所、年齢など]
- (8) 場所(地名)
- (9) 撮影・記録日
- (10) 位置・時刻 [例 GPS を利用し緯度、経度、時刻など]
- (11) 著作権、プライバシー等
- (12) 利用条件 [資料の利用条件:例 自由利用、特定の分野は利用可など]  
【注】現在の利用のみでなく、数十年、数百年先の利用を鑑みた条件設定が必要な可能性も検討する
- (13) 撮影・記録者
- (14) データ様式 [動画、静止画など記録の様式]

### 2. 索引語(キーワード)、分類等 (最終的な DB 作成の際にはメタデータ、分類の再構成を行う)

#### (1) 索引語

全ての災害関連に適用できるシソーラスは構成されていません。そこで、現状および将来の検索・利用を配慮し、各分野を分類する内容について、キーワードとして一つは入れて下さい。さらに、各分野で構成されているシソーラスがあれば利用し、なければ、資料に対し利用者の観点からキーワードを決め記入して下さい。

#### (2) 分類 被害区分、対策・予防区分など (大・中・小の分類は重ねて記述可)

大分類 自然災害・社会災害(地震、津波、風水害、火災、原発災害など)  
中・小分類 救助・支援、復興、防災、生活(衣・食・住)、政治・行政、教育、医療、産業、交通(鉄道・道路・車・航空)、通信、物流など